

洗礼の証

私がキリスト教会の教えに出逢ったのは、2004年12月20日、第3土曜日だったと思います、豊栖さんに誘われて、阿南ルーテル教会での聖書デスカッションに参加させて頂きました。

教会の場所が分からなかったため、30分くらい遅れて教会に着きました。



教会には、バンスカ先生ご夫妻がおいでで、聖書デスカッションに参加されている人達がクリスマスケーキを切り分けておられました。

このときが、聖書を手にした最初の日です。

バンスカ先生ご夫妻や、聖書デスカッションに参加している人達の暖かい人間性が、私の心に伝わって来ました。

私は、23才の時に建設業を興し、現在まで建設業一筋にやってきました。ですから、建設業界の人々との交流はありましたが、他の職業の人々との交流が少なかったせいもあり聖書デスカッションに参加されている人々が話されている事が、自分と考え方の違いもあり非常に興味を引かれました。

私は1945年1月17日（昭和20年）早朝に生を受けました、母親の話によりますと未熟児で生まれたために、育てるのに苦勞をしたと言っております。

私が24才の時妻、順子と恋愛をしました、そして1年ほどつきあった後、1970年6月10日に両家の家族や親族に祝福されて結婚式を挙げました。

妻は、私の親友の妹です。

結婚式を挙げて7ヶ月後の1971年1月3日にめでたく男の子が生まれました。

長男が誕生して2年後に、次男が生まれました、次男が生まれて2年後に、長女が生まれました。

3人の私達の子ども達は、長男が男の子2人と女の子1人、次男が男の子1人と女の子2人、長女が男の子1人と女の子1人、そうして今年の年末か来年早々に女の子が誕生します。

私の家庭は、私の母と妻順子と私の3人家族で平凡な家庭ですが、子供達の家が私の家の近くなので、子供達の家族や孫がいつも遊びに来てくれていて、幸せに暮らしています。

私と、妻は旧約聖書に書かれている創世記のアダムとエバのように、禁断の木の実を38年前に食べたのです、そして図々しくも今、聖書を手にしています。

聖書を手にするまでは、天があり、地があり、光があり、やみがあることなど日常のことであり当然のこととっていて、神の存在などには気づきませんでした。

しかし、私がここにこうしていること自体が奇跡であり、妻と知り合えたこと、そして愛し合い結ばれて3人の子供を授かり、9人の孫を抱かせてもらっていることも、人の力ではなしえない事であることに気づきました。

私が生まれながらに背負っている罪、そして又、自分の人生をデザインするために数々の罪を犯しました。これからも沢山の罪を作りながら生きていこうと思いますが、天のお父様どうか暖かく見守って下さい。

私たち、罪人のため、私たちの罪を背負って死んで下さった主、イエス・キリストを信じます。

神様が人間として生まれきて下さった祝日、クリスマスイヴ、イヴに愛する妻と一緒に洗礼を受けられる事を喜んでいきますし、また、なにか意味を感じます。

聖書を通じて、人としての生き方を学ばせて頂きましたパンスカ先生ご夫妻、今聖書の教えを学ばしていただいていますカリオイネン先生ご夫妻、聖書デスクッショングループの人達、阿南教会、淡路めぐみ教会の皆様へ感謝致します。

今日ここにお見えの皆様、そして世界中の兄弟達、私も皆様の仲間に入れて頂きました事を喜びとして生きて行きます。

(福岡公典さんは淡路めぐみルーテル・キリスト教会の会員で、2007年1月23日の洗礼式の証です。)